

30 NOV 2001



第15号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒105-0004 港区新橋5-25-1-3

編集：JAAGA事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

〔特別寄稿〕 米国における同時多発テロ

テロと日米同盟

JAAGA会長 & 在日米軍司令官

9月11日に発生した米国に対する同時多発テロは、政治・経済軍事の中枢を特定する目標選定、19人の実行犯からなる組織性、旅客機を爆弾化する巧妙性、規模の膨大性等、世界を驚愕させるのに充分過ぎる程の事件であったが、国連安保理は直ちにこれに対応して同日、国連憲章第7章・第39条に基づいてテロ攻撃を「国際社会の平和と安全に対する脅威」と決定し、米国の「個別的及び集団的自衛権」行使を容認した。本来ならば国連警察軍が機能してこの様な事件への対応の主体を取るべきであるが、国連にその能力なく多国籍軍による対応となった。そして、我が国は米国との同盟関係を最重視する姿勢から「テロ特措法」を成立させ、米軍を始めとする多国籍軍への支援を実施することとなった。

今般、この機会を捉えて、石塚・JAAGA会長及びヘスター在日米軍司令官からメッセージをいただいたので紹介する。

今こそ同盟の証を

会長 石塚 勲



Gen. Ishizuka (Ret.)
President, JAAGA

2001.9.11 米国を襲った史上最悪の同時多発テロは、21世紀に備えるべき新たな脅威を現実のものとして見せ付けるものであった。一瞬にして6千を越す生命が失われ、平和・

自由・民主主義を支える国際秩序は、その脆さを露呈してしまった。「今回のテロを放置すれば、今の世界が拠って立つ規範の否定となる」との共通認識と危機感が、従来存在した国家間の利害の相違を乗り越えて国際関係を再編成に向かわせている。

我々は、米国民はもとより世界の人々と、テロの非人道性に対する“怒り”を共有し、長く辛い戦いを覚悟し、断固としてこの挑戦を退けなければならないと考える。今回のテロに対する我が国の対応は、

米国と国際社会が発している「日本は21世紀の日米同盟及び国際秩序を支える上で如何なる責任を果たし得るか」との問いに対して、明確に答えるものでなければならない。

日本が戦争を放棄しても、戦争は日本を放棄している訳ではなく、日本人がテロの危険に近づくまいとしても、テロは向こうからやってくる。テロの前では何処もが戦場である。我々はこの現実を直視し、卑劣なテロに対して断固屈しない決意を固め、第一級の責任国家として相応しい行動を取る必要がある。

米国は我が国唯一の同盟国である。これまで我が国が軽武装国家として、地域の各国から軍事的脅威と目されずに自らの安全を全うし繁栄を追求し得たのは、日米同盟に依るところが疑いも無く大きい。そして見通し得る将来において、我が国の安全と繁栄のために我が国の立場からは、日米同盟に代る現実的な選択肢は無いと考えられる。

我が国が、苦難に直面した米国に最大限の支援を行うのは、国際社会の責任ある一員としての責務である以上に、同盟国として当然の責務である。そして、テロ直後の米国内の報道に真珠湾攻撃とのアナロジーが盛んに使われたことに留意し、米国民に対して我が国が信頼し得る同盟国であることを明確に認識させる事が極めて重要である。即ち我が国の言動は、同盟国として責任ある役割を果たしていると米国民に容易に理解され、評価されるタイミングと内容でなければならない。

テロ関連3法案の成立によって、限定条件付きではあるが、我が国はPKO活動等を除き今回初めて自衛隊を海外に派遣し、米国のEnduring Freedom(不屈の自由)作戦の支援を通じて、国際社会が秩序を回復するための軍事活動に参加することが可能となる。元在日米軍司令官のマイヤーズ大將は統合参謀本部議長として、同じくエバハート大將は米宇宙軍司令官として、そして前在日米軍司令官ヘスター中將は米空軍スペシャル・オペレーション・コマンドの司令官として本作戦に直接携わっており、我が国の行動特に自衛隊の行動を熱い視線で注視していることであろう。

自衛隊は、託された任務を確実に果たすに相違ない。また、日米の担当する役割こそ異なるが、これまでの共同訓練等で培われた共通の基盤が必ずや作戦の成功に寄与するに違いない。問題は、限定された枠組みの中で、如何に協力支援の実効が上がる行動を取り得るかにある。支援に対する評価は、被支援者側にあることを再確認しなければならない。もとより許容しうる危険の存在は計画の前提である。危険を如何に克服するかが問われている。

今こそ同盟の証を立てる時である。そして今こそ日米同盟が国際社会に寄与することを示す時なのである。

J A A G A 会員一同を代表して、また大多数の日本人を代弁して、Enduring Freedom 作戦の成功を心からお祈りする。

講演等の要望を募ります

「安全保障に関する日米関係」等

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解の

ため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備しています。ご要望あれば御一報下さい。 J A A G A 事務局

「不屈の自由」作戦

ヘスター司令官



Lt. Gen. Hester
Former CMDR., US Forces Japan
and 5th Air Force

2001年9月11日は我々を全く変えてしまった。我々は世界73カ国の5000人以上もの何の罪も無い人々が、自分たちのイメージに描いた世界へ変えたいとするテロリスト達によって、一瞬のうちにその尊い命を奪われた惨劇を目の当たりにしました。しかし同時に我々は又、そういう非人道的、非民主的な社会への変革に抗して、我々の価値観を守ろうとする多くの国々からの英雄的な行為、人々を助けようとする深い思いやりや支援を目の当たりにしてきました。

“不屈の自由”作戦と命名されたこのたびの軍事作戦は、テロリストの攻撃に対して国際協調の中で進められる多面的な対策の中のほんの一部にしか過ぎません。我々の友好国や同盟国によってとられた外交的、経済的、政治的措置はテロリズム撲滅という究極の目標達成にとって緊要にして不可欠なものばかりです。

我々の軍事作戦について申し上げます、この作戦は次の成果を得ることに焦点を合わせています。

- テロリストを置くことは決定的な代償を支払うことになるということを知らせる
- 抑圧された人々を人道的に救済する
- 今後の諸作戦を遂行するための情報を得る
- アフガニスタン国内に所在するタリバン反対勢力との関係を確立する
- タリバンの軍事施設を破壊することにより軍事バランスを変える

テロリズムとの戦いに対する日本の貢献は、我々の最も重要な同盟国として我々が期待していたようにとても素晴らしいものです。危機の早い時期に、在日米軍施設の防護のために警察を直ちに派遣してくれたことは、計り知れないほど意味のある事でした。即ち、それは、我々在日米軍は、日本における

あらゆる脅威に対して日本と一緒に行動を起こす準備はできているということ、再確認させてくれた日本からのメッセージでした。

新しいテロ対策特別措置法が国会で承認され成立したことは、日本が国際社会における責任国家としての第一歩を印す画期的な出来事だったと思います。

このことは日本にとって政治的に非常に難しい決断であっただけに尚一層のこと、米国は感謝の気持ちで一杯です。我々はこの法律が成立するに至るまでの慎重な議論を、注意深く見守ってきました。その過程を見ている限り、この法律はそう簡単には成立しないものと思っていました。この法律によって日本はテロリズムと戦う対等なパートナーとして、国際的な連帯の仲間入りが出来ようになったと思います。そして又この法律によって日本は、これまでのように経済的な支援や人道的な支援のみならず、軍事的な支援も可能になったと思います。

私は、在日米軍司令官兼第5空軍司令官としての2年間の勤務を終えて、11月19日に日本を離れます。私は在任の間に、冷戦のパラダイムから新しい種類の脅威へと変化していく国際環境の中で、日米防衛共同計画や演習を新しい段階へと進ませることが出来たと確信しており、そのことを大変誇りに思っております。新ガイドラインが成立し、日本の周辺事態に対する対処のための準備を、日米が相互で進めてきたことが、意外な方向へと進むこととなりました。即ちこの準備が、この度のテロリズムとの国際的な戦いを遂行していく上で、日米両国が実施しなければならないことの土台となっていったという訳です。

私は、この歴史的に重要な時期に、日本で勤務できたことを大変光栄に思っております。JAAGA会員の皆さんが、私に対して示して下さいったご厚情並びにご支援に対して心から感謝申し上げます。そして又、再び日本に戻り私の後任として司令官を勤めるトーマス・ワスコー中将に対しても、私と同様引き続いてご厚誼を承り、ご支援をしていただけるものと確信しております。

ドウモアリガトウゴザイマシタ。

Operation Enduring Freedom

By Lt Gen Paul Hester

September 11, 2001 is a day that changed us all. We saw over 5,000 innocent civilians from 73 nations murdered in the space of a few moments by terrorists who seek to transform the world in their image -- but we also saw heroism, compassion, and support from an array of nations that gives promise to transform the globe.

The current military operation, dubbed Enduring Freedom, is only a part of a multi-faceted coalition response to the terrorist attack. The diplomatic, economic, and political initiatives being taken by our friends and allies are equally critical to the ultimate goal of defeating terrorism.

Our military operations are focused on achieving several outcomes:

- Making it clear that harboring terrorists carries a definite price
- Providing humanitarian relief to the oppressed
- Acquiring intelligence to facilitate future operations
- Developing relationships with opposition groups within Afghanistan
- Altering the military balance by denying the Taliban offensive systems

Japan's contributions to the fight against terrorism have been outstanding, as we expected from our most important bilateral ally. The rapid dispatch of the National Police to guard American facilities during the early days of the crisis was invaluable, and sent a message that we were prepared to act in concert toward any threat in Japan.

The new anti-terrorism legislation passed by the Diet is ground breaking, and is appreciated by the United States all the more because it was a difficult step for Japan to take politically. We watched and listened to the thoughtful debate, and are aware that these steps were not taken lightly. The new legislation will allow Japan to participate as an equal partner in the coalition fight against terrorism. It will allow Japan to participate not only on the economic and humanitarian fronts, as they have in the past, but to contribute in a support role on the military front as well.

I will be departing Japan on November 19th, after serving the last two years as Commander, US Forces Japan and 5th Air Force. I'm very proud of the great strides we made in our bilateral planning and exercising, moving from the Cold War paradigm to the threats of a new kind. The passage of the Defense Guidelines, and the bilateral preparation for responding to Situations in Areas Surrounding Japan turned out to be fortuitous. It laid the groundwork for our two countries to respond as we have during this international war on terrorism.

It has been a great privilege for me to serve here at this momentous time in our history. I wish to thank all the members of the Japan-America Air Force Goodwill Association for the outstanding support and hospitality you have given to me, and that I know you will provide to Lt Gen Thomas Waskow as he returns to Japan. Domo arigato.

CHANGE OF COMMAND

在日米軍（米第五空軍）司令官交代

去る11月19日、在日米軍兼第5空軍司令官ポールV. ヘスター中將からトーマスC. ワスコ中將への交代式が米空軍横田基地において挙行された。

式にはベーカー駐日米国大使、ブレアー太平洋軍司令官等の他日本側からは竹河内統合幕僚会議議長遠竹航空幕僚長、石塚JAAGA会長等が参加し、厳粛なうちにも和やかな雰囲気の中で実施された。

ポールV. ヘスター中將は、約2年間の日本における任務を終了し、フロリダ州ハールバート空軍基地に所在する米空軍特殊作戦軍司令官に転出された。ヘスター中將は、在任間、我が国周辺事態下における初めての指揮所演習である「キーン・エッジ00」、同じく実動演習「キーン・スウォード01」という日米共同演習を成功裡に導き、また、東京都との防災演習にも積極的に参画されて新しい機軸を開かれるとともに、日米間の懸案事項であった沖縄問題、さらに最も重大な日米共同計画検討作業、いわゆる「日米防衛協力のための指針」（ガイドライン）の実質化を力強く推進される等、日米同盟の更なる緊密化・有意義化に貢献された。また、JAAGAとの関係においても、積極的に各種会合にゲスト・スピーカーとして気楽に参画されるとともに、大学生等を横田基地に招き、自らが討論の主体となって日米同盟の実態を若い世代に良く知ってもらう努力を率先して行う等、いわば日米同盟に“魂を吹き込む”最初の在日米軍司令官としての実績を築き上げられたと認識している。

以下、新司令官の着任あいさつ及び経歴を紹介する。

ワスコ中將着任挨拶



Lt. Gen. Thomas C. Waskow

皆さま、おはようございます。

ベーカー大使ご夫妻、ブレアー大將、ベガート大將、竹河内議長、遠竹空幕長、並びにご来賓の皆様、本日は両国の歴史にとって大切な時期にこの大変重要な式典

にご列席くださりありがとうございます。この式典は私の経歴の中でも最も輝かしいものであり、私の家族にとって大きな歴史的意義があります。

今回の来日は私の家族と日本の方々との暖かい関係に新たな一章を加えることとなります。その関係

は、1923年に祖父のパーシー・ポー・ビショップ大佐が関東地方を襲った大地震の災害救援のために毛布や医療品を東京に届ける派遣団の団長を務めたときから始まりました。祖父の未出版の自伝には、人道的支援への日本の方々の暖かい感謝の気持ちが大切な思い出として綴られていました。

その後も日本との関係は続き、朝鮮戦争時代に空軍兵士であった父と共に1952年に明治公園近くの家に家族全員で引っ越してきました。私と同年代の日本の子供たちと空き地で野球をし、言葉が通じないので身振り手振りで意思の疎通を図ったとても楽しく大切な思い出があります。

その35年後、沖縄と第五空軍での勤務のため今は私が日本に帰ってきました。その際に芽生えた日本の方々との暖かい友情は現在でも続いております。古巣に戻ってこれることができ大変うれしく思い

ます。

ブレアー大將並びにベガート大將、私を在日米軍及び第五空軍の司令官として選出くださいましたことを大変光栄に思います。重要な時期にこのような機会を下さり、感謝いたします。

日本の皆様、私は我々両国における安全保障を更に発展させるべく共に仕事ができますことを大変楽しみにしております。皆様のパートナーとなることのみならず、地域社会の一員となれることを誇りに思います。我々両国が文明社会を攻撃したテロリズムに対し共に手を携え戦っている現在、この日本における勤務は重要であります。

過去数十年にわたりアメリカのリーダーが例外なく繰り返し言ってきた事は、この二国間関係が最も重要だと言うことです。それは両国の安全保障への相互的な関わりを基盤としています。またその関係が永続性を保つためには常に注意をはらい、滋養を与えていかななくてはなりません。皆様とヘスター中將がこの26ヶ月間で築き上げた関係を更に発展させていくことを楽しみにしております。

ブレアー大將、ベガート大將、ベーカー大使、カントリーチーム、各軍司令官そして自衛隊の皆様、前途にある挑戦に真正面から取り組む揺るぎない決意と絶えざる努力をお約束いたします。日本とその周辺地域における平和、安定、繁栄を保証するために、お互いに尊敬し、共通の目標を掲げ、共通の決

意の中で努力してまいります。

アメリカ合衆国を代表する在日米軍及び第五空軍の隊員には、我々の任務は今までと同じであることを強調します。これまで即応力を重要視してきましたが、今後はこれまで以上に重要となります。即応力向上のための支援を約束します。

また、日本で勤務している陸、海、空軍、海兵隊及び沿岸警備隊の隊員の生活の質の向上にワスコウ家の全面的な支援を約束します。隊員の皆さんは我々両国を全面的に支援しています。今度は私が諸君を支援します。

ヘスター中將ご夫妻、お二人の日本における貢献に対しここにいる皆様と感謝すると共に、次の任務へのお祝いを申し上げます。また、我々の異動にあたり様々な面でお手伝いいただきシーラ共々感謝いたします。お二人の幸運と神のご加護をお祈りいたします。

改めまして、ヘスター中將ご夫妻と私どもにとりとても大切な儀式にご列席くださいましたお一人お一人に感謝申し上げます。

シーラも私もこれから皆様と共に働き、友情を深めることを大変楽しみにしております。我が家の伝統である、偉大な両国のために奉仕できることをとても喜んでいます。

本日はありがとうございました。

経 歴：

- －1970年7月－1971年11月 オクラホマ州ヴァンス空軍基地第3576学生部隊にてパイロット研修
- －1971年11月－1972年12月 ベトナム、タイソンナット空軍基地第21戦術エアーサポート部隊にて管制官
- －1972年12月－1974年3月 アラバマ州クレイグ空軍基地第52飛行訓練部隊にて飛行教官
- －1974年3月－1976年9月 アラバマ州クレイグ空軍基地第29学生部隊において、クラス・コマンダー及び教官
- －1976年9月－1977年7月 アラバマ州クレイグ空軍基地第29飛行訓練航空団において社会環境調整部部長
- －1977年7月－1979年4月 ペンタゴン空軍司令部において、訓練プログラム・オフィサー及び副参謀長
- －1979年4月－1982年7月 西ドイツ、ビットブルク空軍基地第525戦術戦闘部隊においてF-15A飛行教官、後に副長、飛行隊長、運用副部長
- －1982年7月－1983年6月 西ドイツ、ビットブルク空軍基地第22戦術戦闘部隊において運用部長

<ヘスター中将送別会>

強く感じた「日米友情の絆」を胸に 日本大好きのリンダ夫人も感慨無量

激しい秋雨の降るなか、10月10日夜、グランドヒル市谷においてヘスター中将の送別会が行われた。ヘスター中将は転勤前のご多忙中のところ、それに加えてテロ撲滅のための“Enduring Freedom 作戦”実施の最中、貴重な時間を割いてご夫妻で御出席下さり、名残を惜しむようにJAAGA会員との送別のひとときを過ごされた。送別会には、石塚会長をはじめ会員31名及び同夫人10名が参加した。

会の冒頭、石塚会長より、要旨次のような挨拶があった。

「この度、在日米軍司令官兼第5空軍司令官として活躍してこられ、JAAGAとしても大変お世話になったヘスター中将が転勤されることとなり、お送りすることとなりました。その影には、ファーストレディ、大統領夫人のような役割を立派に勤めてこられたリンダ夫人の存在があったことは言うまでもありません。ヘスター中将は数多くの偉大な業績を残してこられました。我々との関わりの中で申し上げれば、ヘスター中将は、JAAGAが仲介して企画した、日本のこれからを担う若い人達、大学生及び大学院生の基地研修を受け入れるとともに自ら接遇し、学生達に対し日米安全保障同盟について考える機会を与える等、彼らに強烈な印象を与えられました。また、JAAGA 5周年記念行事の時には、駐日米国大使の代理の代理を急遽見事に勤めて急場を立派につくろい、我々に素晴らしいスピーチをし感銘を与えました。次の新しい任務は、フロリダに司令部のある米空軍特殊作戦軍 (AFSOC) の司令官と聞いていますが、現在注目を集めている大変重要でありかつ厳しい任務が待ち受ける部隊であります。そのような大変な仕事に就かれる訳ですが、今まで米国のために、日米友好のために、世界の平和のために努めてこられたヘスター中将のやっ



Farewell to Lt. Gen. & Mrs. Hester

てこられた方法で、これからの任務を立派に果たしていられるものと確信しております。美しいリンダ夫人が、今までと同じく親切でやさしく、そして二人でお幸せに過ごされますよう心から願っております。」

このあと、石塚会長より記念品としてヘスター中将へ、盾及びネクタイを贈呈した。

宴もたけなわになり夫人も交えて思い出話やこれからの事等、話が弾んだが、別れを惜しみつつ閉会の時を迎え、会長よりヘスター中将に九谷焼の壺を、そしてリンダ夫人に羽子板を記念品として夫々贈呈した。そのあと、リンダ夫人とヘスター中将が次のように謝辞と別れの言葉を述べられた。

まずリンダ夫人が、「ドウモ、アリガトウゴザイマス、今日は精神的に大変つらいひとときでした。日本での勤務は、最初は12年前の沖縄での勤務でした。それは2年間の主人の勤務でしたが、勤務を終えて転勤する時には、大変離れ難い気持ちを抱きました。次の日本勤務は三沢でした。このときは日本のことは分かっている積りでした。しかし、日本の人々がいかに素晴らしいかを、改めて教えられ

る日々でした。そして三沢を離れる時、『身体は日本を離れるけれども心は日本に残して行く』と言って三沢を後にしました。そして三度目の日本勤務は横田でした。横田に来ると決まった時には、飛び上がらんばかりに喜びました。

異国である日本の家庭に招かれて、歌を歌い、浴衣を着、楽しく語り、そのようにして異文化を知り人を知ることが、平和を築くもとであると思います。我々を暖かく迎え入れて下さった人々に心から感謝致します。この前、日本を訪れたアメリカ人の夫婦を自宅に招待した時、『あなたの家に来て直接接してみて、あなたが何故日本を愛しているのかがよく分かった』とその友人は言うてくれました。この言葉を聞いて、私は大変嬉しく思いました。どうぞフロリダの私達の家を訪ねてきてください。」とやや声を詰まらせながら感謝と別れの言葉を述べられた。

最後にヘスター中将が、「本日はこのような送別会を私と家内のために開いていただき、大変嬉しく思いますし、又大変名誉なことと思います。石塚会長はじめJAAGA会員の皆さんに心から厚くお礼申し上げます。合計12年間に及ぶ日本との関わりを通じて得たもの、それは友情です。個人レベルでの私的な友情、そしてプロフェッショナルなレベルでの友情と色々なものがあります。丁度5年前、私

がエバハート司令官の下で三沢のコマンダーをしていた時、米空軍と航空自衛隊との長い歴史の間に培われてきた友情が、JAAGAの設立に結実し今日の発展に至っているものと思います。米国統合参謀本部議長マイヤーズ大将も、日米の友情の絆を強く感じている一人です。日米協同訓練コープノースに参加した日米の隊員が培い抱く友情、そしてまた近くは、9月11日の米国同時多発テロのあと、米国の遭遇した困難な時に航空自衛隊が米国に示してくれた友情、それらは何物にも置き換え得ない価値ある素晴らしいものです。

1990年に沖縄に勤務し、ついで三沢、そして横田で勤務し2001年に日本を離れるまで、日本との関わりの中で、米国人として日本や極東アジアを見てきましたが、これからは初めて米国人として世界を見ることとなります。これまで培ってきた友情のおかげで世界への認識も広まってきました。米国人としてのみならず、日本人のものの見方も学びました。危急の時に力を発揮する最強の絆、それは強い友情に支えられた関係です。JAAGAと皆さんの益々の発展を祈ります。ドウモアリガトウ。」と謝辞を述べられた。

最後に、勇躍新任地に赴任されるヘスター中将の武運長久を祈って、大串理事の音頭で万歳を三唱して送別会を終了した。

横田基地司令交代

—— 後任にスターンズ大佐 ——

涉外 林理事

米空軍第374輸送航空団司令兼ねて横田基地司令のザムゾウ大佐は、10月25日付で離任し米本土のアルタス空軍基地勤務となりました。後任はスターンズ大佐で、スコット空軍基地から転入されました。

同交代式は、同日、第5空軍司令官ヘスター中将により、横田基地の同部隊のハンガーで実施され、

JAAGAからは石塚会長が出席しました(林理事随行)。式典は厳かに、また戦争下の緊張感を漂わせながら執り行われましたが、特に新着任のスターンズ大佐が着任の辞の中で、作戦下の矜持を部隊に盛んに求めているのが印象的でした。

＜ザムゾウ大佐送別会＞

— J A A G A が主催で —

これに先立つ 10 月 19 日、J A A G A の石塚会長は、ザムゾウ大佐夫妻を、羽村市に所在する川魚料亭「魚観荘」に大串理事夫妻、林理事夫妻陪席のもと、送別の夕食会にご招待し、同大佐ご夫妻の横田基地在任間のご労苦を労い、J A A G A 活動への多大のご支援・ご協力への感謝の意を伝えられました。

また、この席で、石塚会長から、J A A G A の盾を同大佐に、羽子板を同 Fran 夫人に記念として贈呈しました。

同大佐は、横田基地勤務が充実したものであり、その間、J A A G A の活動が彼らの任務遂行に如何に寄与するものであるかに関し所見を述べられました。

会食の間、日本での生活の数々の思い出、更には日米風俗・文化の比較等の話題に花が咲くとともに、ご夫妻は同席で視覚と味覚と聴覚から日本の秋を堪能されたご様子でした。

同大佐の次の補職は、第 97 航空機動航空団司令、



Col. and Mrs. Zamzow

兼ねてアルタス空軍基地司令で、ご夫妻はオクラホマ州住まいとなります。同航空団は航空教育コマンド隷下であり、C-5、C-17 を含む全輸送機の教育

を担当しており、C-17 出身の同大佐としては、「本領発揮の任務」と、やる気十分であり、日系のフラン夫人は日本に心を残しながらも、オクラホマ州はお二人の出会いの州でもあり、転勤を大歓迎のご様子でした。

最後に、同大佐から再度、「J A A G A の活動に深謝し、今後の発展を期待します。会員の皆様に、くれぐれも宜しくお伝え下さい。」とのお礼の言葉がありました。

J A A G A の活動に貢献された

在日米軍司令部広報部長交代

在日米軍司令部広報部長ジャネット・ミニック (Jeanette H. Minnich) 米空軍大佐は 1998 年 11 月着任以来、自らの任務が「日米安全保障条約への日本国民の支援を築き維持していくこと」と理解し、J A A G A 広報のパートナーとして各種の調整を積極的に実施してこられました。

特に、J A A G A の在日米軍広報活動協力・支援について、具体的プロジェクトの提案を行い、米軍側で出来ること、日本側で出来ることを意見交換して明確にすることによって、J A A G A 活動の実施できる事項を示唆してくれました。その結果、J A A G A の企画による大学生の横田基地研修事業が実現することとなり、去る 6 月、第 1 回目の帝京大学生の研修においては戦後の日本に育った若者に感銘を持って安全保障の重要性を理解させ大きな成果を収めました。また、J A A G A の機関紙「だより」に米軍ページを提供することとし、自らも寄稿

して在日米軍の考えの一端を示されました。(「だより」10 号)

同大佐の在日米軍司令部広報部長としての熱意と J A A G A に対する理解、積極的支援は日本における日米安全保障条約



Col. Minnich

の意義の理解を深めただけでなく、J A A G A の役割拡大にも大きく寄与しました。

J A A G A では同大佐の離任にあたり、11 月 26 日、J A A G A 広報担当者代表が米軍横田基地を訪問し、同大佐の功績を讃えて、感謝状を添えて盾を贈呈しました。

平成 13 年度 日米隊員の表彰

—— USAF 3名、JASDF 4名の隊員を表彰 ——

J A A G A は、日米関係の友好親善に寄与した日米双方の隊員に対する表彰を毎年行っており、平成 13 年度も、米側 3 名、日本側 4 名の計 7 名の表彰を行った。表彰式は、例年であれば米空軍の創立記念式典 (Air Force Ball) に合わせて日米双方の隊員に同時に行ってきたが、今年は米国における同時多発テロの影響を受けて横田及び 嘉手納基地での式典が中止となったため、沖縄地域では 10 月 12 日に

石津那覇支部長が那覇及び嘉手納基地に赴いて、また関東地域では 10 月 16 日に石塚会長が府中、入間及び横田基地に赴いて、それぞれ個別に表彰式を行い、表彰状並びに記念の盾を授与した。なお三沢基地においては、実施が危ぶまれていた Misawa Air Force Ball が期日を 11 月 17 日に変更して実施となり、この式典の中で現地へ赴いた石川副会長が日米双方の隊員への表彰を行った。



SMSgt and Mrs. Hollowood



W. O. and Mrs. Okawara

今回の表彰隊員は、次の通り。

[USAF]

- LtCol Craig Y. Castillo (横 田 : 第 374 輸送航空団第 374 医療群 374 医療隊)
- Capt Travis D. Rex (三 沢 : 第 35 戦闘航空団第 14 戦闘飛行隊)
- SMSgt William E. Hollowood (嘉手納 : 第 18 航空団第 18 医療群 18 医薬隊)

[JASDF]

- 准 空 尉 大川原守彦 (府中 : 航空総隊司令部准曹士先任)
- 空 曹 長 大山 徳敏 (入間 : 中部航空警戒管制団司令部監理部広報室)
- 空 曹 長 阿部 秋雄 (三沢 : 北部航空施設隊)
- 1 等空曹 松川 佳弘 (那覇 : 南西航空警戒管制隊南西防空管制群)



10月10日・12日

救援物資の引き渡しを終えた空輸機は、10日デリーを離陸、途中ウタパオに一泊、10月11日16時45分、一番機が那覇基地に到着に引き続き、全機が無事那覇基地に帰国した。10月12日、那覇基地を飛び立ったC-130型輸送機は、大勢の隊員と家族が待つ空自小牧基地に無事帰投した。到着後、任務終了式及び編成解除式が実施され、今回のアフガニスタン難民救援国際平和協力業務が終了した。

10月15日

無事任務を完遂した空輸隊長は首相官邸で官房長官に、その後、防衛庁長官に帰国報告を実施した。

10月9日

9日デリーを出発した1番機は13時20分（日本時間）イスラマバードに到着、パキスタン大使、UNHCR代表、現地司令官の出迎えを受けた後、救援物資をUNHCRへ引き渡した。

その後、C-130輸送機は次々とイスラマバード空港へ降り立ち、すべての救援物資を引き渡した後、デリー空港に無事到着した。



テロの影響で大学生の米軍研修中断

—— 日米とも、再開を熱望 ——

J A A G Aの重要なプロジェクトの一つとして位置付けられている大学生等の横田基地研修支援は、平成13年6月20日、志方教授が引率する23名の帝京大学学生の基地訪問から始まり、7月25日、御厨 貴ゼミの政策研究大学院大学学生13名による研修と順調にその成果を重ねてきていたが、9月28日に予定されていた上智大学学生の研修が9月11日に発生した米国同時多発テロ事件の影響を受けて中止せざるを得なくなり、今後の予定が立てられない状況になっている。いずれにせよ、本プロジェクトに対する在日米軍・第5空軍の取り組みはまことに真摯であり、第1回目はギャリー・ヒューイ副司令官、第2回目はポール・ヘスター司令官自らが、

学生との討論に積極的に参加するとともに、在日米軍司令部の各部長も臨席し、極めて活発な議論が行われ有意義であった。また、基地施設の研修や司令官・副司令官を囲んでの昼食会も極めて丁寧な配慮が重ねられており、学生はじめ引率の教授等も満足して研修を楽しむとともに、日米同盟の実態をまさしくそれぞれの目で確認し認識を新たにしたいとのコメントを重ねて耳にした。

前述した通り本プロジェクトの今後の予定は未だ立っていないが、石塚会長及びヘスター中將も是非これを継続してほしいと希望されており、時期を見て来春にも再開できるよう、担当者一同努力を重ねる所存である。

… 新入会員の紹介 …

1 新入会員の紹介

(1) 正 会 員

氏 名 勤 務 先	〒	住 所	電 話 番 号
山 名 捨 身 横 河 電 気 (株)	277-0835 163-1054	柏市松ヶ崎259-1-103 新宿区西新宿3-7-1	0471-34-7079 03-5323-5135
宇 都 宮 靖 横 浜 ゴ ム (株)	350-1323 105-8685	狭山市鶴の木16-16-4 港区新橋5-36-11	042-952-1642 03-5400-4722
清 水 正 睦 川 崎 重 工 業 (株)	359-1132 105-6116	所沢市松ヶ丘1-16-41 港区浜松町2-4-1	042-939-2041 03-3435-2051
高 島 秀 雄 横 浜 ゴ ム (株)	227-0034 105-8685	横浜市青葉区桂台1-17-6 港区新橋5-36-11	045-961-2131 03-5400-4722
四 ッ 家 邦 紀 島 津 製 作 所 (株)	285-0814 101-0054	佐倉市春路1-12-7 千代田区神田錦町1-3	043-483-0005 03-3219-5518
村 岡 亮 道 三 菱 重 工 (株)	358-0002 100-8315	入間市東町7-12-19 千代田区丸の内2-5-1	042-965-2720 03-3212-3111
海 老 沢 滋 三 菱 重 工 (株) 名 誘	435-0862 485-8561	中村区岩塚町小池1-1 三菱第2菱風寮N-205 小牧市東田中1200	090-6164-2232 0568-79-3017
定 作 勉 三 菱 プ レ ジ ョ ン (株)	302-0004 108-0073	取手市取手1-11-13-601 港区三田3-13-16	0297-77-4030 03-3453-6423

(2) 個人賛助会員

氏 名 勤 務 先	〒	住 所	電 話 番 号
宇 都 宮 滋 メロンコーポレーション	156-0057	世田谷区上北沢3-31-13	03-3329-9403
柴 田 三 雄 柴 田 三 雄 事 務 所	107-0062	港区青山6-3-11 パン南青山1001	03-3797-0320
井 川 新 也	243-0813	厚木市妻田東1-10-33	046-222-1747

(3) 法人賛助会員

法 人 名 者 代 表 者	〒	住 所	電 話 番 号
四 藤 掛 一 季 恵	102-0094	千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニガーデンコート4F	03-5276-2030
京セラミタジャパン(株) 飯 田 克 巳	103-0023	中央区日本橋本町1-9-15	03-3279-2116

2 名簿修正等

(1) 名簿修正

ア 正会員勤務先及び住所等変更

- ・ 伊藤 惇 勤務先変更 〒101-0065 千代田区西神田 3-1-6 (日本弘道会ビル)
TEL:03-5210-4826 FAX:03-5210-4873
- ・ 斉藤 芳信 勤務先変更 〒107-0052 港区赤坂 1-9-13
TEL:03-3560-0701 FAX:03-3560-0727
- ・ 立山 尚武 住所・電話番号変更 〒247-0062 鎌倉市極楽寺 3-5-7
TEL:0467-23-2131 FAX:0467-22-8178
- ・ 長谷川孝一 電話番号変更 TEL:0424-78-3221
- ・ 松下 尚武 川重を退社 勤務先削除
- ・ 利涉 弘章 勤務先変更 〒104-6105 中央区晴海 1-8-11オフィスタワーY 8階
TEL:03-6220-0721 FAX:03-6220-0731

イ 個人賛助会員勤務先等変更

- ・ 工藤 健 勤務先等の変更 クリニック滝野川 副院長兼内科部長
〒144-0023 北区滝野川 3-39-7 TEL:03-3910-3438

ウ 法人賛助会員住所等変更

- ・ 住友精密工業(株) 住所変更 〒104-6105 中央区晴海 1-8-11オフィスタワーY 8階
TEL:03-6220-0721 FAX:03-6220-0731
- ・ 日商岩井(株) 住所変更 〒135-0091 港区台場 2-3-1
TEL:03-5520-3249 FAX:03-5520-3246
- ・ 丸紅エアロスペース(株) 住所変更 〒104-0044 中央区明石町 8-1
TEL:03-3544-5400 FAX:03-3544-5411
- ・ 横浜ゴム(株) 代表者変更 永島 和男

(2) その他

ア 訃報

高橋 正次 6月7日 死亡

イ 休会

武井 雄三 休会 (H12.10~2年間タイ駐在)

☆ 原稿募集 ☆

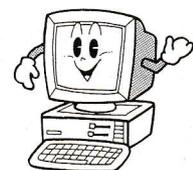
皆様からのフリーな投稿や、JAAGAの活動に対するご意見やご要望を頂戴し

皆様と共に歩むJAAGA

として更なる発展を期していきたいと思ひます
皆様の貴重なご意見や各種投稿をお待ちしています

投稿受付

木村 忠信 Tel 03-3464-3053 (GEエジソン生命)
Fax 03-5459-2236



会 員 募 集

J A A G A は、その活動をより活発にし、更なる前進を目指して会員の会勢拡大に努めております。会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。

なお、個人会員の区分と入会資格は次のとおりです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には、直接会員担当の係から連絡させていただきます。

【入会資格】 正 会 員 : 航空自衛隊OB

賛助会員 : 航空自衛隊OB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

「郵便」 〒105-0004 東京都港区新橋5-25-1-3

日米エアフォース友好協会 会員担当行

「電話」 03-5323-5135 村木裕世(横河電機(株))

03-3219-5638 細 稔(株)島津製作所

042-333-1229 壺岐紘記(日本電気(株))

03-3489-1120 尾崎利夫(東京航空計器(株))

03-3212-3111 村岡亮道(三菱重工(株))

03-3431-4820 宇都宮 靖(横浜ゴム(株))

「FAX」 03-5323-5555 村木裕世(横河電機(株))

ワンポイントQ&A

Q JAAGAとは?

A JAAGAは、航空自衛隊と米空軍との相互理解と友好親善の増進に資することを目的とし、現役の皆さんが仕事をやりやすい環境作りに寄与しようという航空自衛隊OB主体の組織です。

Q 協会の運営は?

A JAAGAは、ボランティアに徹し見返りを求めないこと、及び努めて現役の皆さんに負担を掛けないことを方針として運営しております。多くの皆様の期待に応えるべく、さまざまなアイデアを取り入れ、活動の幅を広げ、種々の事業を展開してまいります。

Q 私も参加できますか?

A JAAGAは、その活動をより活発にするため、個人会員の会勢拡充に努めております。航空自衛隊のOBの方は、どなたも正会員として入会できます。また航空自衛隊OB以外の方でも、個人賛助会員として入会の道があります。